

第 579 回：【1 年生向け】大学の授業を受ける上で（DM）

みなさんこんにちは。「LA」毎週月曜 12:00~15:00 担当、博士課程 2 年の DM です。今回で早くも三回目。どうぞよろしくお願いします。

今回のお題は、「【1 年生向け】大学の授業を受ける上で」です。これについて私と言えるのは、ひとこと言えば、「「90 分授業」のリズムを掴むこと」です。

新しい環境に身を置くとなると、どうしても、生活のリズムが変わってしまうものです。その生活のリズムは自分のものですから、ほんの少しの変化であっても、慣れていくのは大変なことです。

大学の授業も、やはり、慣れが肝心です。第一、高校生の頃までは一回の授業が 50 分だったのが、大学生になった途端に 90 分！ しかも、その 90 分の授業が一日に何コマも続く日もあるとか。とても大変です。

大学の先生たちが講義してくれるのはあくまでも「90 分授業」です。ですから、大学の授業を真面目に受けるとなれば、「90 分授業」のリズムを掴むことが求められるのです。

「90 分授業」のリズムと言っても、各々の先生によってリズムは様々。とはいえ、共通点がないわけではありません。すなわち、「一回ごとの授業の要点はそんなに多くはない」という共通点です。

先生が講義を行うスタイルの授業では、

先生たちは、その日の授業で何を強調したいか、事前に設定しているものです。90 分の授業の中で、先生たちは、その要点を効果的に伝えるために、抑揚や緩急をつけて説明しています。90 分というのは決して短くないので、ひたすらに緊張状態を強いる授業は稀です。テストの日は別として……。

そういうわけで、どのタイミングで先生が要点を強調したるか、そのリズムを掴むことが肝要です。もちろん、授業内容は大事です。その授業の中でとりわけ重要であるのはどの情報なのかを見失っては勿体ありません。ただ、その情報がどれであるかを見極めるときに、内容だけでなく、話し方や、身振り手振りを注視してみると、意外なところで授業の理解が深まる可能性があるのです。

知識の定着のために有効なのは、やはり、自分でメモやノートをとることでしょう。とはいえ、疲れて挫折してしまうポイントは、やはり、何をどれくらいメモすればよいか分からなくなってしまう、というところにあるのではないのでしょうか。

そんなとき、それぞれの授業のリズムに注目してみると、過度な緊張が解けて、情報の取捨選択が、ほんの少し気楽になるかもしれません。

リズムに乗ること。つまりはリズムを

第 579 回：【1 年生向け】大学の授業を受ける上で（DM）

楽しむことです。はじめは調子外れでも、
慣れていくうちに、リズムは段々と安定
していくものです……。

今回の「LA 通信」は以上です。次回も
どうぞよろしくお願いします！